

1990. 2. 15

The Japan Academy of Midwifery Newsletter NO. 2

日本助産学会ニュースレター

発行所 日本助産学会
東京都新宿区片町1番地12
〒160 電話03-357-2506
代表者 近藤潤子

ニュース・レター第2号に寄せて

松本 八重子

ニュース・レター第2号をお届けする時期が参りました。学術誌としての性格—学術性—を堅持しようとしている学会誌の編集に携っている身にとっては、原稿にも、活字にも中毒の状態ですが、学会誌はその性格ゆえに、本学会の現状からは速報性は手に余ると言わざるを得ず、ニュース・レターの存在意義は大きいと思われまます。

10月8日に開催されましたワーク・ショップも活発な参加状況で、参加者はそれぞれに大きなインパクトを得て全国へ散って行かれました。このような地道な積み上げを通して、よりよく産み育てることへ、自然のしくみの巧みを十分に生かせるような働きかけをする助産のしごとの裏付けとなる高い科学性、人間性を追究すべく熱い思いを結集して設立された「日本助産学会」は、順調な営みを続けて来ていると確信します。

3月11日、都市センターホールで開催予定の第4回学術集會も、演題申し込みも多く、参加申し込みも相次いでいるとのこと。そこでも密度の高い討論が出来ることを楽しみにしております。

今年はまだ、日本の助産婦にとって記念すべき年になると思います。神戸での「ICM大会」です。ICM本部から本会へも中間プログラムが送付されました。ICMニュース・レターの中に概要をご紹介します。ご活用下さい。

(日本助産学会副理事長)

用語を吟味し、こだわって

伊藤 千榮子

以前から私は、助産婦の職場で表示・使用する用語に疑問を持つことが多くあった。例を挙げると産科病棟・産科の病室・患者の類である。健康感にあふれた妊産婦と接する時に、上記の用語はおよそそぐわれないと思われるが、これらはとかく吟味して使われていない。『産科の患者さん達は……。』とすっかり思いうもの仕立て上げている。

もっとも定義を厳密に考えると、医療機関に収容される妊産婦は、異常診断名がつく機会が多いことも関係しているとも云える。

しかし「健康な母体」で「良いお産」をし、「よい子を育てる」ために援助するものとしては病的な表現の中におくことは望ましくない。むしろ少々の健康障害、分娩時の軽度の医療介入（軟産道強靱→会陰側切開術）などは、一般に正常な領域の中で創部には充分注意をしながら扱っている筈である。その点通常新生児については、病院の中の患者として呼ばれていることはないと思う。

助産婦のカリキュラムが変る。学科目の中でも助産学として打ち出されたものが多い。

今までの教育の姿勢と特に変わるものでは

ないが、明確に表現されたことが何と云っても喜ばしいことである。

「助産」とは、助産婦が妊産婦・新生児のために行う専門的行為を云う。即ち妊産婦が妊娠・分娩・産褥期に生ずる心身の変化に適応し、異常を予防し安楽な生活を送ることが出来るように、又胎児・新生児の安全を守るために援助する行為である。（全国助産婦教育協議会）

この際、私達の活動の中心となる『助産』と云う用語を是非日常業務の中に定着させたいものである。現在臨床の場で看護と云おうか助産と云おうかあいまいで悩んでいる所から脱け出し対象を明確にして、『助産』と云う用語を日常化して使うようになれば嬉しいことである。

今まで述べて来た数々の用語にしても、思わしくないのは、病院のシステムがネックになっていることが多いと思われる。他の診療科と同じ単位で産科を管理する上で生ずる問題の1つかも知れない。しかし、現在助産婦の活動している場は圧倒的に病院となると、その中にいる助産婦が常に用語について吟味すること、こだわって使うことによって受益者への理解・他職種への理解が進む一手段であると思う。

北海道立衛生学院 助産婦科長

第4回日本助産学会総会を開催します

総会開催につきましては、学術集会案内のなかで、おしらせ致しておりますが、下記のように計画しています。万障繰り合せのうえご出席ください。

記

- 1.日時 1990年3月11日(日)12時50分
- 2.場所 日本都市センターホール
- 3.報告・議事

- 1) 平成元年度活動報告及び会計報告
 - 2) 平成2年度事業計画案
- 第5回総会・学術集会開催
学会誌・ニュースレター発行

研究集会の開催

助産婦業務・教育委員会設置
国際活動（国際評議会1990年10月2～4日神戸にて開催へ代表2名派遣、その他）

- 3) 平成2年度収支予算案
- 4) 次期評議員・役員承認

4.その他

第5回総会・学術集会日程等の紹介
第6回学術集会会長紹介

（当日受付で次年度会費受け付けます）

ICM本部からの連絡事項

1. ICM理事 (Board of Management) の下記の3職についてそれぞれ候補者の指名をすること
 - ① 理事長
 - ② 副理事長
 - ③ 会計
 2. ICM地域代表 (西太平洋) 2名の指名
 3. ICM国際評議会代表2名の指名 (1990年10月2～4日神戸)
 4. 1996年ICM大会主催国として立候補
 5. 決議文・声明文への提案
- その他 1987年評議会議事録を受領した。

ICMニュースレター (1989年10月、第2巻第2号) から

I ICM地域会議ニュース

地域	開催地	会期	参加国	参加者	内容
西太平洋 (第2回会議)	ホンコン	1989年7月 1日～2日	12か国	300名余	目標 安全な母性の確保のために地域内の助産に必要な変化をおこさせる。 ワークショップのテーマ ①助産婦教育 ②助産婦業務 ③プライマリーヘルスケア ④女性の地位 上記についての行動声明がまとめられた。
ヨーロッパ (第1回ワークショップ)	チュービンゲン (西ドイツ)	1989年9月 8～10日	全ヨーロッパ	100名余	テーマ 研究は助産婦を必要とし、助産婦は研究を必要としている。 内容 ①方法論 ②研究の助産実践と助産学への応用

「研究は助産婦を必要とし、助産婦は研究を必要としている」

この最初の助産婦のためのICMワークショップは研究に焦点を当て、ヨーロッパ中から100人を超える助産婦の参加によって実施された。演者は、カナダのKaren Kaufman, イギリスのMavis Kirkham, Mary RenfrewとJenifer Sleep, スウェーデンのMarie WindstromとUlla Walderstomであった。その人々は、研究の方法論、研究の助産婦業務の実践への適用、助産婦の行う研究をトピックスと

した。そのミーティングはドイツ助産婦協会の主催により行われ、Tubingen大学のICM委員会で素晴らしい会場が準備された。

それぞれの国々でワークショップが開催され、全ての助産婦にその情報が提供されることを、ヨーロッパ地域で働く助産婦が希望している。次回のワークショップはオランダで開催される予定で、その準備が着々と進められている。

II 国際評議会

1990年10月2～4日 神戸にて開催
(日本助産学会からも2名の代表を派遣)

III 本部会費の助成

ICM本部に財政困難であるメンバーのために本会の滞納会費の支払に利用する銀行口座が開設され、スイスの助産婦から最初の寄付が寄せられた。

IV 国際助産婦の日

(Internatinal Day the Midwife)

国際助産婦の日を5月5日に定めた。回答を寄せた殆どの協会は、国の祝祭日と重ならないように選んだと述べており、更に第1回の国際助産婦の日の祝典は、1990年5月1日が望ましいと提案していた。もしこの日が不都合ならば、ICM事務局に連絡して下さい。

V 第22回国際助産婦連盟大会 1990年10月7～12日(神戸)開催

- ・中間プログラムおよび演題募集の詳細が発表された。
- ・演題抄録の締切りは2月28日、採用後の原稿締切りは6月30日である。
- ・登録料

申込期間	前期登録料	後期登録料
	1990年6月15日(消印)まで	1990年6月16日～1990年8月15日
一般	50,000円	55,000円
学生	20,000円	25,000円
同伴者	20,000円	20,000円
1日	15,000円	15,000円
学生(1日)	10,000円	10,000円
(学校単位での申し込みに限る)		

・大会集録(英文のみ)3,000円 希望者は登録用紙所定欄に記入、登録料に加算して送金すること。

・申込方法

所定の登録用紙に記入のうえ下記事務局へ郵送し、登録料は銀行振込する。両者が揃うと、領収書、名札、大会資料引き換え券が送付される。

〔登録用紙送付先〕

〒100 東京都千代田区内幸町2-2-1
日本プレスセンタービル4F
日本コンベンションサービス内
第22回ICM学術大会登録・学術事務局
電話(03)508-1213

〔登録料振込先〕

銀行名 : 三菱銀行 青山支店
口座番号 : 普通0543399
口座名 : 第22回ICM学術大会
会長前原澄子

・登録の取り消し

登録の取り消しは、文書で1990年8月15

日(消印)までに、上記事務局へ連絡すれば登録料の75%を大会終了後に返金される。

8月15日(消印)をこえた申し出は返金できない。

VI オーストラリア助産学会報告

オーストラリアのダーウィンでオーストラリア助産学会(ACM)によって開催された学会には助産婦300名が出席した。基準演題はルービック(米国)とライザ・ニュービー(オーストラリア)によって行われた。

オーストラリア政府はオーストラリア助産学会に42,000ドルを寄付し、目標の達成を援助している。援助は漸減しながら5年間続けられる。

ACMは助産業務の規準Standards for Midwifery Practiceを出版し、全国からの意見を待って改善、再版の予定である。現在の会員数22,000名 会長、シンシア・ターンプル。

VII ガーナ、ニュースレターから

アメリカ助産学会はガーナにおいて妊産婦死亡の調査を行い、リスクのアセスメントと介入手段を開発しているが、その経過が報告されている。

VIII ハター・ヘムシュマイヤー賞が、国際母子保健における貢献によってボニー・ペダーソン（アメリカ助産学会会員）に贈られた。

IX 国際出産教育協会（ICEA）

出産教育教育について：ICEAはすべての妊婦に出産教育学級が受講できるように援助し、また世界のすべての国々に妊婦のためにこのような学級が大切であることが認められ、これを妊婦教育に加えるように勧奨することを決議した。

助産について：ICEAは助産婦教育と助産業務の開発や基金の設定を通じて充実させるための援助を行い、教育を受けた助産婦の免許の制度化をはかり、全世界の女性と家族のためのリプロダクティブヘルス、母性保健における助産婦の中心的役割の保証を援助することを決議した。

X 胎児心拍モニタリングに関する声明
—アメリカ産科婦人科学会—

分娩中の胎児心拍のモニタリングはリスク因子に基づいて行い、各施設において方針を定めておくべきである。

分娩第2期における15分ごとの聴診は、連続モニタリングを行うのに等しく有効であることが証明された。

ハイリスク産婦の場合、または連続モニタリングが行われている場合は下記のガイドラインに依り胎児心拍を評価すべきである。（慢然と連続モニタリングを行わず、定期的に評価することが重要）

胎児心拍評価のガイドライン

第1期	ハイリスク産婦		ローリスク産婦
	聴診	モニター	聴診
	子宮収縮直後に聴取 少くとも15分毎に評価し記録する	連続モニタリングのデータは少くとも15分毎に評価する	子宮収縮直後に聴取 少くとも30分ごとに評価し記録する
第2期	少くとも5分毎に聴取し、評価・記録する	連続モニタリングのデータは少くとも5分毎に評価する	少くとも15分ごとに評価し記録する

XI outlook 7巻1号の要約記事2題

1. 子宮頸癌の信頼できる腔内容物塗抹標本のつくり方について
2. ラテックスゴム製コンドームが都市の大気中に含まれるレベルのオゾンにふれると劣化が速くなる。

XII アメリカ助産婦協会からの便り（アメリカ助産婦協会刊のNews Release）

アメリカ助産婦協会は、今年度サンジェゴで第34回の学会を開催した。その学会には、1,129人の助産婦が参加登録し、助産婦や母子保健に関する知識や情報を交換するために参集した。興味あるトピックスとしては、十代の妊娠の成果、多民族の居住する都市部での妊娠中のケアの障害、パースセンター利用の成果、助産婦職能の法的処遇の獲得、等があった。有資格助産婦は、急速に認められ、多くの人々に知られるようになった。米国では、現在4,000人余りの助産婦が広範囲な領域で活動している。健康な女性を対象とするとともに、マタニティサイクル全体を通して、正常で健康な女性にケアを提供し、さらに家族計画に関するケアを提供している。1986年には、アメリカの助産婦は、89,810人の赤ん坊を取り上げた。この数は、過去10年間の3倍以上に匹敵し、毎年増加している。

XIII 刊行物案内

1. 国際産科婦人科学会 (F.I.G.O.)
の新刊

(1) The FIGO Manual of Human Reproduction (人類生殖に関するFIGOによるマニュアル) 全3巻; FIGO、ニューヨーク、コロンビア大人口・家族保健センター、WHO編 ヒューマン・リプロダクションに関するあらゆる側面からの総合的、権威ある最新の情報を提供するべく作成されている。550をこえる図を用い、必要な部分は色刷りも採用しわかり易く工夫されている。

上記3巻に加えて、教育用のカラー
スライドも別料金で購入可能

(2) 産科・婦人科学の進歩シリーズ:
The Proceedings of the XIIth World Congress of Gynecology and Obstetrics in Rio de Janeiro in October 1988 (第12回FIGO世界大会記録—1988年10月於リオデジャネイロ) 6分冊
(1)(2)の注文用紙は下記へ請求のこと
Parthenon Publishing Group Ltd
Casterton Hall,
Carnforth, Lancs LA6 2LA
ENGLAND

2. Planning for Action by Midwives (助産婦による行動計画のために)
ガーナ、アクラにおけるICMワークショップの記録(1989年1月開催)
テーマ「国の助産業務の強化」
ICM本部発行

3. Preventing Maternal Deaths (妊産婦死亡の予防)
WHO刊行物 40スイス・フラン/32米ドル 20冊以上は半額
下記から入手可能(WHOの刊行物は丸善が取り扱っています。事務局注)
Mrs C. Capitoni
Distribution and Sales
WHO
1211 GENEVA 27-Switzerland.

4. Facts for Life
(子どもの生命と健康のための科学的根拠)

—発展途上国の子どもを守るために—
UNICEF, WHO, UNESCO編
1英ポンド(送料含む)
ICM本部から入手可能

5. Midwives, Research & Childbirth,
Vol.2
助産婦と研究と出産 第2巻
S. Robinson, A.M. Thomson編
Chapman & Hall発行
10ポンド95ペンス
一般書店より入手可能、困難時は下記へ
Alison West
Promotion Dept.
Chapman & Hall Ltd
11 New Fetter Lane
LONDON EC4P 4EE

6. Tutors—are you short of foetal skulls? (教員の方々へ—胎児頭蓋骨が不足ではありませんか?)
紙製胎児頭蓋骨キット 注文先:
Gillian Barber
16 Itchen Close
Oakley, Basingstoke
Hampshire RG23 7DL
ENGLAND
他に胎位シュミレーション模型(紙製)あり。

XIV 研修案内

家族保健に関する学際的研修会
主催モントリオール大学
コミュニケーション、人口、地域保健の
専門家を対象として10か月間の集中コース
が4回開催される予定である。
第1回は1990年5月～1991年2月まで、詳細は下記へ問い合わせのこと。

Programme Interdisciplinaire de
Formation en Sante Familiale
Unite de Sante Internationale
Universite de Montreal
C.P. 6128, succursale A
Montreal (Quebec)
H3C 3J7 CANADA